

よりよい術前訪問をめざして

中央手術部 発表者 甲斐沢 政 美

高 山 好 子・花 岡 尚 子・小 沢 まゆみ・宮 下 喜久子
西 沢 ミツ代・滝 沢 武 子・上 嶋 照 子・古 平 慶 子
浅 井 ヨシ子・西 原 三枝子・山 本 ひろ子・沢 谷 ゆき江
深 沢 佳代子・堤 澄 子・大 月 和 子・荻 原 直 美
島 崎 さゆり・宮 沢 京 子・新 井 孝 子・天 野 万喜子
町 田 則 子・岩 田 公 子・青 木 欣 久・興 ふじ子
宮 坂 いね子

〔はじめに〕

昨年は術前訪問を業務に定着させるためにこの研究に取り組んだ。しかしそれが本当に患者にとって良かったのかどうか、評価されていない。それは、術前訪問が看護婦側からの一方的な説明になりがちで、患者自身の気持ちをどの程度推しはかれているのかデータが少ないためである。

そこで今回は、術前の患者の気持ちを知ることによって、これからの術前訪問をより内容の深いものにし、術中看護に生かしていこうと、この研究に取り組んだ。

〔目的〕

- 1.術前に患者はどんなことが心配なのかを知る。
- 2.術前に患者はどのような援助を必要としているのかを知る。

〔方法〕

- 1.スタッフが患者の立場にたって、術前に患者はどんな不安があるのか、どのような援助を必要としているのか考えてみる。
- 2.術前訪問をし、面接を通して、患者は何が心配なのか、何をしてほしいのかを知る。
- 3.術後訪問をし、2と同様にして、術前に何が心配だったか、何をしてもらえば良かったかを知る。
- 4.病棟での受け入れ、及び術前・術後訪問に対しての意見、患者の感想を知る。
- 5.スタッフと患者の意見を比較・検討する。

〔実施〕

方法1について

- a 術前の不安にはどんなものがあるか
- b 術前に、患者は看護婦に何をしてほしいと思っているか
- c 術後に患者はどんな感想をもつか

a・b・cについて、スタッフ間でアンケートによる調査を行った。

方法2・3について

麻酔の種類（全麻・腰麻・硬麻・局麻）による分類はせずに、時間のとれるスタッフが病棟と連絡をとって術前・術後訪問し、面接を行った。

方法4について

各病棟に次のようなアンケートを配り、協力して頂いた。

- ①術前訪問を行って良かったこと・悪かったこと
- ②術前訪問の時、手術室のスタッフに患者に対して言ってほしいこと・言ってほしくないこと
- ③患者の意見
- ④術後訪問に対しての病棟の意見
- ⑤その他

方法5について

患者の意見とスタッフの意見をそれぞれまとめ、比較・検討した。

〔結果〕

資料1・2・3参照

〔考察〕

1.術前の不安は、麻酔のこと・手術のこと・術後のことに分けられると考えた。

①麻酔に関して——スタッフが推測した不安では、麻酔はよく効くか・本当に痛みはないか・麻酔からさめるのはいつか、という麻酔の技術面における不安が多く考えられたが、患者が思う麻酔に対しての不安というのは、麻酔はよく効くか・麻酔とはどんなものか・気管に入れる管はどんなものか・麻酔の薬は何かと麻酔ということに対しての全てが疑問であった。疑問だからこそ不安なのではないか。患者のこのような不安に対しては、麻酔の作用や方法を説明し、対象により場合によっては物品を見せることも、不安を軽減できるのではないかと思う。

②手術に関して——スタッフ側の意見は、手術の無事終了に絞られた。患者は、手術の成功・不成功は勿論で、他に手術前に身体は拭いておいた方が良いか・手術室へ持っていく着がえや衣類の他に何を着用すれば良いか・など〃何か自分にできることはないか〃という、患者自身が積極的に手術に臨もうとしている姿勢をうかがえる意見も出た。これはスタッフ間ではあまり出ていない意見であった。「何もなくていいですよ。」と、言ってしまいやすい私たちは、患者も自ら協力したいと思っていることを見落としていたのではないだろうか。手術の中心は患者である。私たちの援助は全て患者への協力なのだということを再認識した。

2.援助についてスタッフは、苦痛を取り除くこと・気分を紛らす等、抽象的な意見に対し、患者側からは、看護婦さんにおまかせしますという意見が最も多く、他には、判創膏にかぶれないようにしてほしい・寒さに気をつけてほしいと、具体的なものが多かった。これらの意見により、看護は患者の身の周りの世話からはじまらなければならないが、私たちが当り前のことと思いながらも、配慮を怠りがちなのではないかと気付かされた。それ故、患者のニーズを把握できる面接・術前訪問を目指したいと思った。

3.スタッフに言いづらいことも、日常接している病棟看護婦なら話せるのではないかと思われ、

協力を頼んだ。これで得られたことは数多くあるが、最も多い意見が、手術に立ち会う人がわかって安心した・どんな看護婦がついてくれるかわかって安心したという声だった。この言葉に私たちスタッフ全員が、未熟な訪問ながらも更に継続しなければと、励まされる思いだった。

〔まとめ〕

この研究の調査期間中、手術全症例数205件のうち56%に当たる114人の患者と接することができた。この面接を通して私たちは、患者は常に「自分はどうすればよいか」という不安と共に、「自分の力で何らかに協力したい」と思っていることがわかった。「何をしたら良いか」ということがわからないため、ただ漠然と不安である患者に、私たちが心からお世話しようと努力すれば、少しでも不安が軽減される場合も多くあるのだと思う。

しかし、私たちが患者に話すとき、注意しなくてはならないのが病棟での説明である。私たちが余分なことを言ってしまい、患者に負担をかけることのないように、医師及び病棟の看護婦とよく話し合わなければならないことを痛感した。多くの情報を得、実際に面接して、患者の不安を感じることがあれば、その内容をよく考え、もっている情報を分析して、できるだけ気持ちをわかってあげるようにしたい。

これからの術前訪問は、スタッフの面接技術の向上をはかるとともに、患者の立場に立ってみられるようにし、患者の協力も得て看護に生かしていきたい。そして、手術部の看護婦として、手術室内に留まるだけでなく、医師ならびに病棟とも連絡をとり合って一層努力していきたい。

最後に、この研究にあたり御協力下さった皆様に深く感謝致します。

資料 1

1) 術前の麻酔に対しての患者の不安

麻酔とはどんなもので本当によく効き
手術が終わった時本当にさめられるか

麻酔とはどんなものだろうか

- 麻酔をかけられたらどの様になるのか
- 全麻にするのはどうしてか
- ルンパールはどうやってするのか

麻酔の薬はどんなものだろうか

- 麻酔の薬はどんなものを使うのか
- 麻酔ガスの成分は何か
- どんな風にして酸素を送るのか

麻酔はよく効くだろうか

- 麻酔が効かなくて腰麻から全麻に変更したことがある
- 麻酔さえよく効けばよい
- 術後の疼痛が心配なので麻酔が長く効くように
- 全麻にしてほしいと言ったら笑われるか (意識のあるのはこわいから全麻希望)
- 全麻にしてほしい
- 麻酔がきかない体質でかなり強い薬でもきかない
- 途中で目がさめることはないでしょうね

気管に入れる管はどんなものだろうか

- 気管に入れる管は肺まで入るのか
- チューブ (気管内) には薬が入っているのか

点滴はうまく入るだろうか

- 点滴が入りにくい
- 針が痛いのが心配

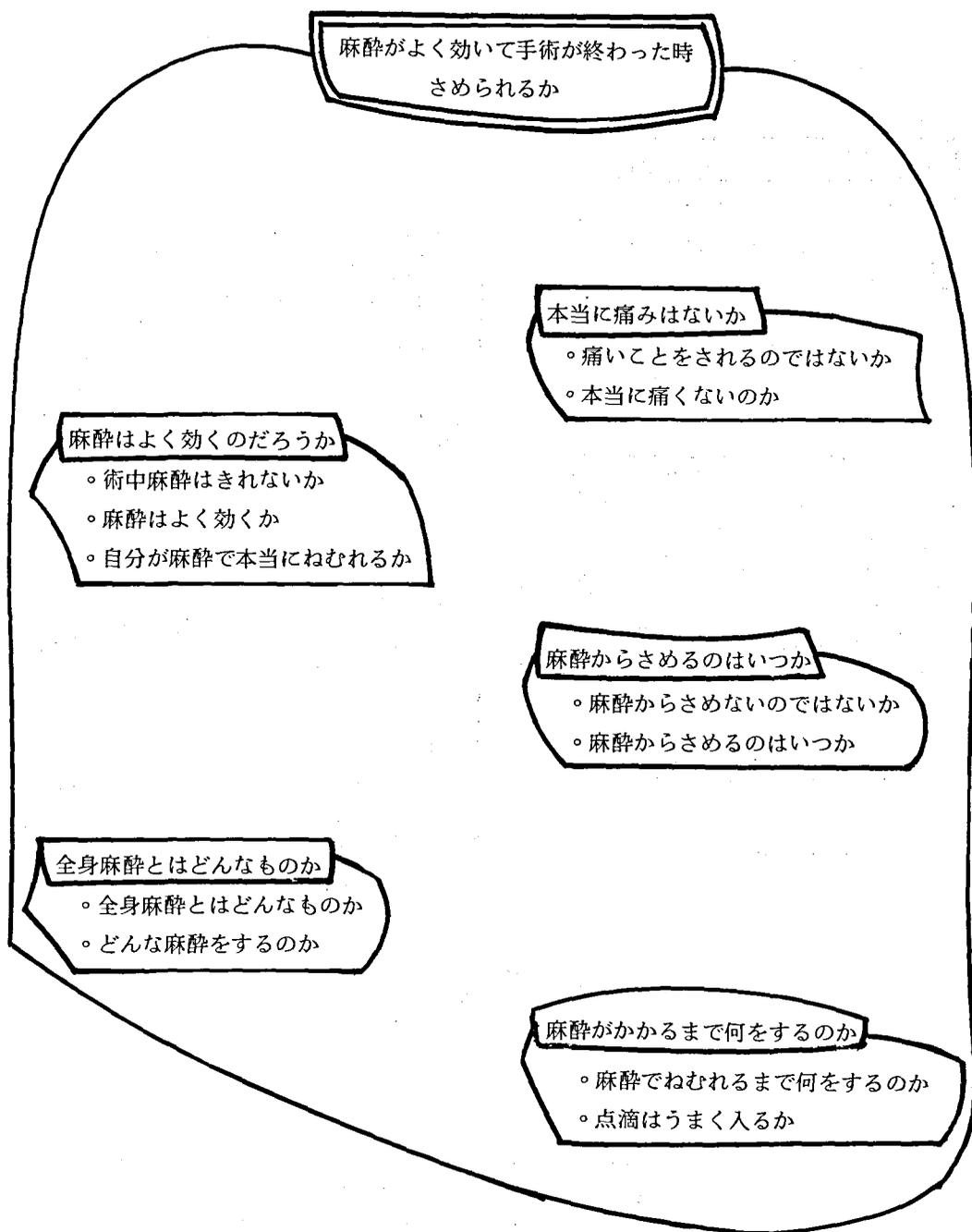
血液はどのようにして入れるのか

麻酔からさめられるか

(そのまま死ぬことはないか)

マスクを当てられた後何も覚えていないので心配ない
(手術経験あり)

スタッフが考えた術前の麻酔に対する不安



2) 術前に患者が考える手術に対する不安

切られる時痛くないだろうか

- 出血しないだろうか
- 切られる時痛かったら困る
- 切られるのは嫌だ

何か自分でできることはないか

- 体は拭いておいた方がよいか
- 手術の時、着替えるのはいつか
- 朝起きたら何かすることはあるか
- 手術室まではどうやっていくのか

自分の病気が悪いもの、再発するものではないだろうか

- 悪いものではないか心配
- 再発しないか

手術はどの様に行うのか

- 腸骨をとる時、おなかを破ったりしないか
- 腫瘍が口にくっついていて摘出するとそこに穴があいて口から息がそこに抜けるのではないか

手術は上手な先生がやってくれるか

きれいに縫ってほしい

手術して痛みやしびれが治れば良いが…

スタッフが考えた患者の術前の手術に対する不安

安心して手術が受けられるか

手術は誰がどのくらいの
時間でしてくれるのか

- 手術にはどのくらい時間がかかるのか
- 術式はどんなか
- 手術は誰がしてくれるのか

出血したら血液は十分
まにあうか

- 血液は十分集まるか
- 輸血は大丈夫か
- 多量に出血することはないか

手術が無事に終わってほしい

- 手術の途中で死ぬ様なことはないか
- 失敗したらどうしよう
- 手術は本当に成功するか
- 自分の病気が手術で治るのか
- 手術する先生は上手か

恥ずかしい思いをしたり
体の型が変わるのはいやだ

- 裸になって恥ずかしい
- 恥ずかしい体位でせつない
- 自分がどのようになるのか
- 便が出たりしないか
- 麻酔がかかっている時、手術以外に何をされるのか
- 傷の大きさはどのくらいか
- 失性、体の形が変わることはないか
- 切られることに対する恐怖
- 自分のくせを配慮してくれるか

悪い病気ではないか

- ガンではないか
- 自分の病気は良性か
悪性か

3) 患者が術前に気になる術後の不安

麻酔のあとの状態は
どうだろうか

- 麻酔でねていても夜も眠れるか
- 手術が終わった日の夜、眠れなかったらどうすれば良いか
- 目がさめるのはいつか
- 麻酔からさめたらすぐに食事できるか

着替えはどうしたら良いか

肩がこるので手術後もそれが続くと困る

いつ歩ける様になるか

痛みはどのくらい続くか

- 痛みはどれくらいでなくなるか
- 疼痛はどのくらいか

手術後苦しむのはいやだ

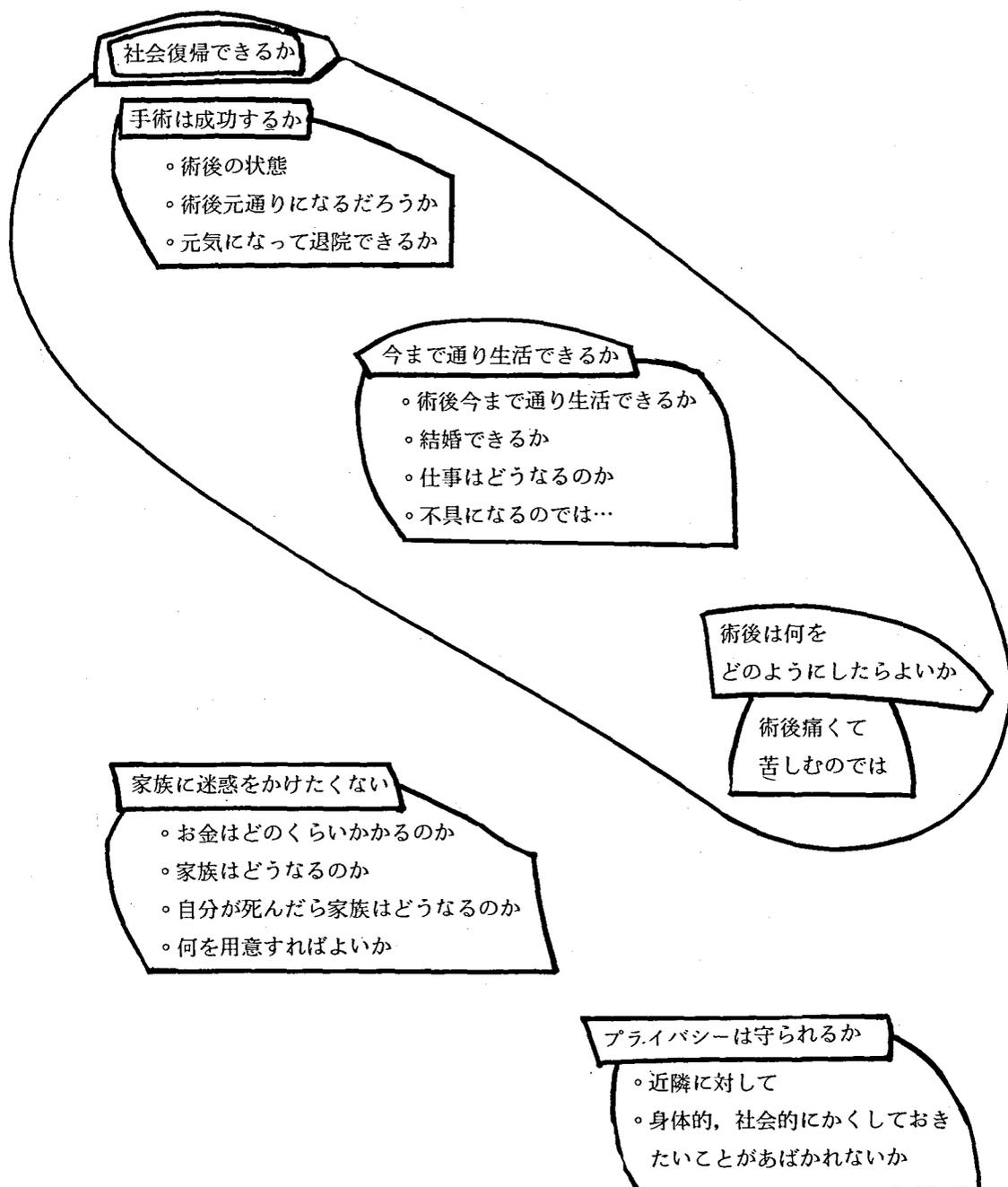
- 咳や痰が出て苦しいのでは
- 手術後吐いている人がいるのはどうしてか

子宮を摘ったあと生理がなくなりホルモンのバランスはどうなるのか

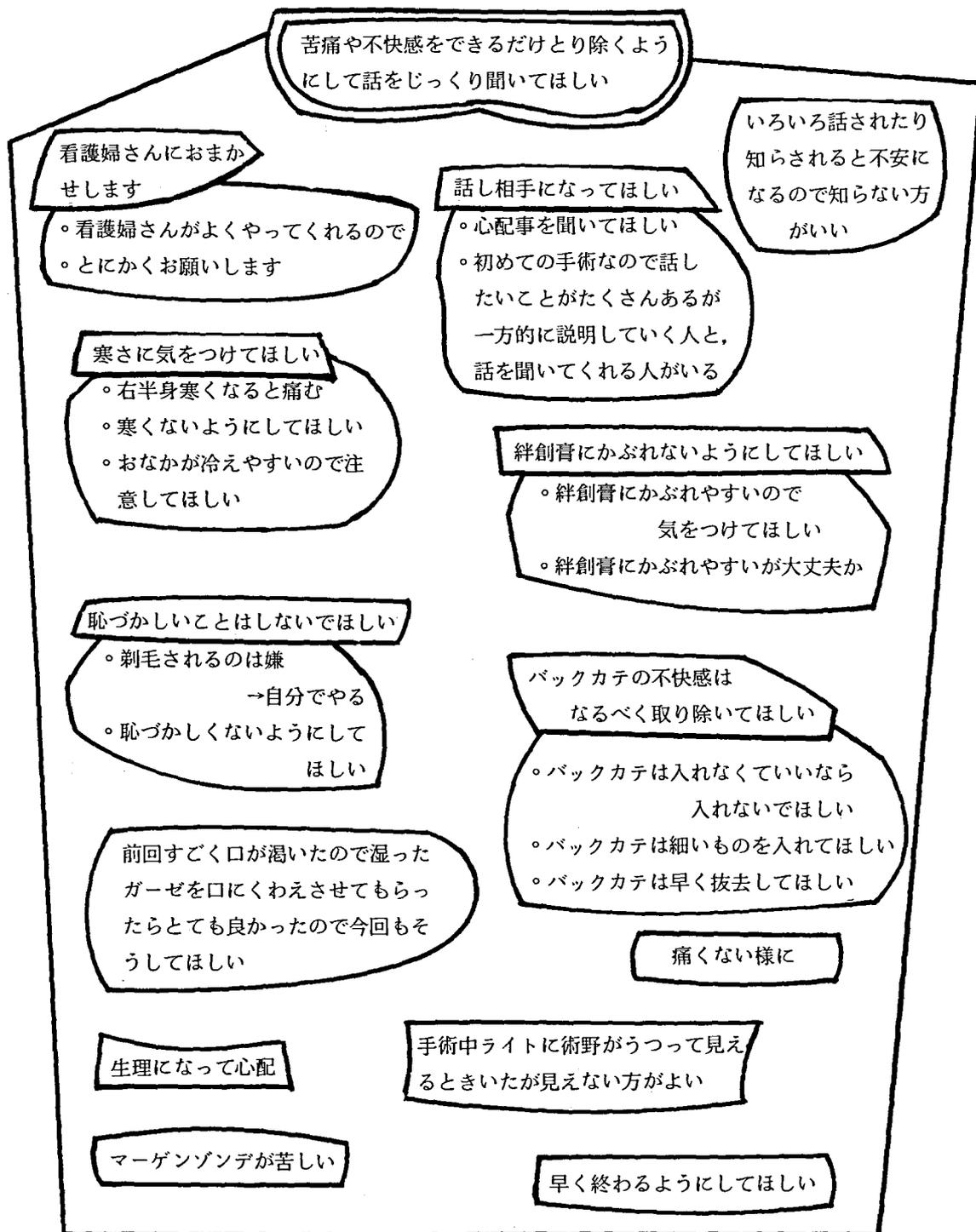
傷がきれいに治ってほしい

仕事になるべく早く復帰したい

スタッフが考えた患者が術前に気になる術後の不安



4) 術前に患者が看護婦に希望する援助



スタッフが考えた患者の希望する援助

病気、手術、麻酔について
納得のできる説明がほしい

術後の様子を教えてほしい

- いつ頃から食べられるようになるのか教えてほしい
- 術後のことをよく説明してほしい
- 正確に自分の術後の体の状態について教えてほしい
- 手術の後、自分がどんな状態になるのか教えてほしい

手術に対する具体的な説明をしてほしい

- 手術室に入ったらすること一つ一つ説明してほしい
- ある程度、手術についての説明をききたい
- 手術自体の納得のできる説明がほしい
- 手術がどのくらいかかるのか

病気について知りたい

- 自分の病気について本当のことを知りたい
- 病気のことをよく説明してほしい

麻酔の前後の状態を知りたい

- 麻酔からさめるときどんなふうになっていくのか知りたい
- 麻酔のことをよく説明してほしい

やさしい看護婦、麻酔医であればよいのだが

- 手術につく看護婦はどんな人か知りたい
- 看護婦や医者が誠意ある態度を
- まちがった処置、手術をしないほしい
- 麻酔医はどんな人か知りたい

だれかそばにいて気を紛わしてほしい

- 不安の除去
- 手術に対する不安を誰かにわかってもらいたい
- そばにいて話をしてほしい
- 手術をした人の話をきかせてほしい
- できたら知っている看護婦についてほしい
- はげましてほしい
- 誰かそばにいてほしい
- いろいろ相談にのってほしい
- やさしい言葉をかけてほしい
- 手術のことは何も知りたくない

恥ずかしい思いはしたくない

- (麻酔などで)うわ言を言わないようにしてほしい
- 恥ずかしい思いをしないようにしてほしい
- プライバシー(肉体的、社会的)を保ってほしい
- 失禁しないようにしてほしい

苦痛をとり除いてほしい

- 痛くないようにしてほしい
- 麻酔で早く眠らせてほしい
- 痛みなど察してほしい
- 大きな、みにくい傷を残さないほしい
- 早くなおって楽になりたい

自分が何をしたら
よいか知りたい

- 自分が何をしたらよいか教えてほしい
- 何を準備したらよいか教えてほしい

5) 患者の術後の感想

看護婦が話しかけてくれて心強かった

- 先生は話してくれなかったが看護婦さんがよく話しかけてくれてとても心強かった
- 看護婦がよく話しかけてくれたので気がまぎれた

いつの間にか眠ってしまって何も覚えていない

- 目がさめたらいつの間にか終わっていた
- 覚えていないから何もない
- 看護婦の声は聞こえていたがいつの間にか眠ってしまった

術前に希望していたことを取り入れてもらえてよかった

- ルンバールの体位は術前に練習していたので楽にできた(術前訪問時)
- 目かくしをしてもらって気分が楽だった(術前の希望により)

医師や看護婦の言っていること(会話)が気になる。「ダメだ」などと言われるとドキッとする

器械の音や話し声はあまり気にならない

寒くはなかった

- 背中がぬくぬくしていてよかった
- 寒くはなかった

手術が終わった安心感で何も覚えていない

- 特にしてほしかったことなど思いつかない
- 手術が終わってほっとした
- 「終わりましたよ」と言われた時、ああ、これで生きられると思った
- あまり恐しくなかった
- 初めての手術でいろいろ想像していたが思ったほどでなかった
- 手術室の看護婦についてはあまり印象がない

くたびれてしまった

気付いた時寒かった

痛みは感じなかった

- ルンバールで術中痛いことはなかった
- 痛くはなかった

- 手術が終わる頃背中の中の下が冷たくなった
- 帰室してから寒かった
- かぜをひいて鼻水がでる
- 寒かったが病室で電気毛布ですぐ良くなった
- 自分は寒くなかったが、周りの人がふるえていたと言った(帰室時)

絆創膏にかぶれた

- 細い絆創膏にかぶれた
- 夜かゆくなってとってもらったら水疱がやぶれた

酸素吸入やバックカテが不快で苦しかった

全麻よりルンバールの方が意識がしっかりしているのよい

のどが渇いて困った

裸になるのは恥ずかしいが仕方がない

手術そのものの痛みより自分で訴えられなかったところに痛みがある

- 点滴をとる時、たたいたあとが痛かった
- 術後、頭の後ろにコブができていて手術のあとよりそちらが痛い
- 頭部、下になって触れているところが痛い

- 麻酔だけはきかせてほしい
- 局麻のため痛かった
- 左腕が2~3日動かず術中腕をつるしていたための筋肉痛といわれる

手術室は広くてどこまで連れていかれるかと思った

手術も何回かやると知りすぎてかえって不安になる

スタッフが考えた患者の術後の感想

手術が終わって安心した

- 手術が終わったのでホッと
した安心感で他に考えていない
- どんな人がついてくれたのか覚えて
いないが無事終わってよかった
- 手術が終わったことをきかされて
ホッとした
- 無事すんでよかった
ありがたかった

あまり印象に残っていない

- 全麻のため覚えていない
- あまり印象に残っていない
- 術中どんな具合いだったか
教えてほしい

落ちついてテキパキ仕事を
していた

もう少し話しかけてほしかった

- やさしくなかった
- こわかった
- もっと言葉をかけてほしかった
- 要求する前に処置をしてほしかった
- 何かする時は必ず言ってからにして
ほしい
- 少しだまっていたくれればいいのに
- 局麻の時忙しそうであり言えなくて
がまんしてしまった
- (看護婦は)機械的にやって
いたみたいだ
- 冷たい(処置に追われていて
なかなか声もかけてもらえない

よくやってもらって心強かった

- そばについていてよくやもらった
- やさしかった
- 安心してまかせられると思った
- とにかく心強かった
- そばにいてもらってよかった
- 声をかけて説明してもらえてよかった
- 声をかけてもらってうれしかった
- 親切だった
- 眠らせてくれるよう配慮してくれてよかった

手術室は騒々しい
ところだ

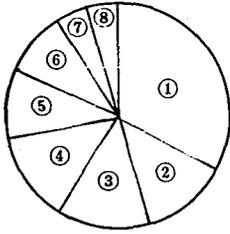
恥ずかしい思いをした

- ねまきをぬがされるのが嫌
だった
- 顔を覚えていられたら恥ず
かしい

患者の意見 (114名中)

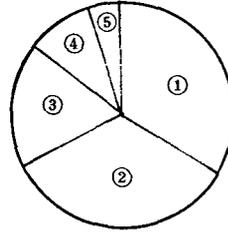
スタッフの意見 (26名中)

1) 麻酔について



麻酔とはどのようなもので、よく効いて、手術が終わった時本当にさめられるのか

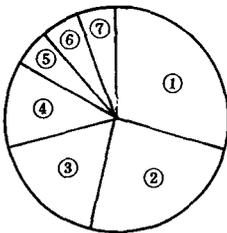
- ① 麻酔はよく効くだろうか 32%
- ② 麻酔とはどんなものだろう 13%
- ③ 麻酔の薬はどんなものだろう 13%
- ④ 点滴はうまく入るだろうか 13%
- ⑤ 気管に入れる管はどんなものか 9%
- ⑥ 麻酔からさめられるか (死ぬ様なことはないか) 9%
- ⑦ 血液はどのようにして入れるか 5%
- ⑧ マスクを当てられた後、何も覚えていないので心配ない (手術経験あり) 5%



麻酔がよく効いて、手術が終わった時さめられるか

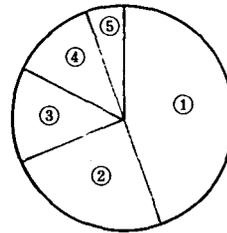
- ① 麻酔はよく効くだろうか 34%
- ② 本当に痛みはないだろうか 34%
- ③ 麻酔からさめるのはいつだろう 18%
- ④ 全身麻酔とはどんなものだろう 10%
- ⑤ 麻酔がかかるまでに何をやるのだろうか 4%

2) 手術について



安心して手術が受けられるか

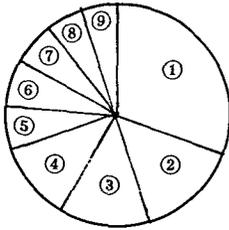
- ① 切られるとき痛くないだろうか 29%
- ② 何か自分でできることはないか 24%
- ③ 自分の病気が悪いもの、再発するものではないだろうか 18%
- ④ 手術はどのように行うか 13%
- ⑤ 手術は上手な先生がやってくれるか 6%
- ⑥ きれいに縫ってほしい 6%
- ⑦ 手術して痛みやしびれが治ればよいが…… 6%



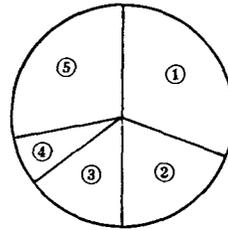
安心して手術が受けられるか

- ① 手術が無事に終わってほしい 45%
- ② 恥ずかしい思いをしたり、からだの型が変わるのは嫌だ 24%
- ③ 手術は誰が、どの位の時間でやってくれるのだろうか 14%
- ④ 悪い病気ではないだろうか 12%
- ⑤ 出血したら血液は充分にまに合うか 5%

3) 術後に対して

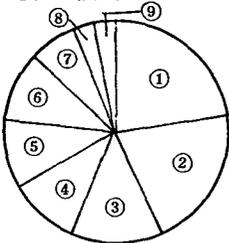


- ① 麻酔の後の状態はどうだろうか 25%
- ② 痛みはどの位続くか 20%
- ③ 術後苦しむのはいやだ 12.5%
- ④ 着がえはどうしたら良いか 12.5%
- ⑤ 肩がこるので手術後もそれが続くと困る 6%
- ⑥ 傷がきれいに治ってほしい 6%
- ⑦ いつ歩けるようになるのか 6%
- ⑧ 子宮を摘出したあと生理がなくなり、ホルモンのバランスはどうなるのか 6%
- ⑨ 仕事になるべく早く復帰したい 6%

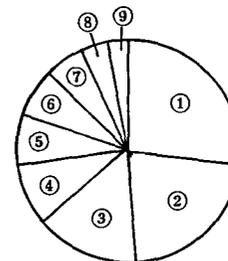


- ① 今迄通り生活できるだろうか 30%
- ② 術後痛くて苦しむのではないかと 19%
- ③ 手術は成功するだろうか 15%
- ④ 術後は何をどのようにしたらよいか 7%
- ⑤ その他 29%
 - 信頼できる看護婦だろうか
 - イ) 手術室の看護婦はどんな人か
 - ロ) プライバシーは守られるか
 - 家族に迷惑をかけたくない

4) 希望する援助



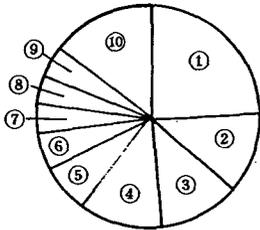
- ① 看護婦さんにおまかせします 23%
- ② バックカテの不快感はなるべく取り除いてほしい 20%
- ③ 寒さに気をつけてほしい 13%
- ④ 絆創膏にかぶれない様にしてほしい 10%
- ⑤ 痛くない様にしてほしい 10%
- ⑥ 話し相手になってほしい 7%
- ⑦ 早く終わる様にしてほしい 3.5%
- ⑧ いろいろ話されたり知らされたりすると不安になるので知らない方 3.5%



- ① 誰かそばにいて気分を紛らわしてほしい 26%
- ② 手術に対する具体的説明をしてほしい 22%
- ③ 苦痛を取り除いてほしい 15%
- ④ 術後の様子を教えてほしい 9%
- ⑤ やさしい麻酔医、看護婦であればよいが…… 7%
- ⑥ 恥ずかしい思いはしたくない 7%
- ⑦ 自分が何をしたらよいか知りたい 6%
- ⑧ 麻酔の前後の状態を知りたい 4%

が良い

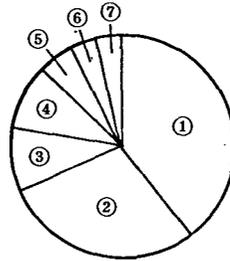
5) 術後の感想



- ① いつの間にか眠ってしまって覚えていない 24%
- ② 手術が終わった安心感で他のことは思いつかない 12%
- ③ 手術そのものの痛みより、自分で訴えられなかったところの痛みがある 12%
- ④ 痛みは感じなかった 10%
- ⑤ 気付いた時寒かった 9%
- ⑥ 絆創膏にかぶれた 6%
- ⑦ 看護婦がよく話しかけてくれて心強かった 4%
- ⑧ 術前に希望したことがとり入れてもらえた 4%
- ⑨ 寒くはなかった 4%
- ⑩ その他 16%

⑨ 病気について知りたい

4%



- ① もう少し話しかけてほしかった 39%
- ② よくやってもらって心強かった 32%
- ③ 手術が終わって安心した 10%
- ④ あまり印象に残っていない 10%
- ⑤ 恥ずかしい思いをした 5%
- ⑥ 看護婦は落ちついてテキパキと仕事をしていた 2%
- ⑦ 手術室は騒々しいところだった 2%

資料3

病棟へのアンケートより抜粋

- ① 術前訪問して良かったこと
 - 顔見知りの人があると、患者が手術室へ行った時、誰も知らない人ばかりより安心感があると思われる。
 - 手術に対して抱いている疑問や不安感に対して、実際に自分の手術を介助する人が話をしたり、説明してくれると、より納得できると思う。
- ② 術前訪問して悪かったこと
 - 患者と一緒に話を聞けなかったので、オリエンテーションの内容がつかめず評価できない。
- ③ 術前訪問の時、手術室の看護婦にしてほしいこと
 - 訪問の内容を看護記録に書いていってほしい。
術前訪問したのか否か、病棟の看護婦はわからない。
患者の反応も聞けるし、きっかけにして手術室の話もできる。
又、面接の結果を患者の反応を含んで記入してもらえれば、精神面の動きもわかりやすい。
 - 「私がつきますから安心して下さい。」と安心させて下さい。
- ④ 術前訪問の時、手術室の看護婦にしてほしくないこと
 - 脳動脈瘤の患者には、再破裂予防のため手術を知らせないことが多いので、術前訪問は避けてほしい。
- ⑤ 患者側の意見
 - 昨日、来てくれた人に会えて安心した。
 - 「手術が終わったよ。」と言われると安心する・ほっとする。声をかけてほしい。
 - 大体の手術の様子については、同じ手術をした患者から話を聞く。
 - 術前に、手術につく看護婦に関し自己紹介があり安心感があった。
- ⑥ 術後訪問に対しての意見
- ⑦ その他
 - 術前・術後訪問共に言えることだが、その時病棟看護婦も一緒に患者を訪れて、手術室の看護婦も紹介したいと思います。